1. 序論

1-1 動機

2010年のFIFAワールドカップ南アフリカ大会は、岡田武史監督は世界でベスト4という目標を掲げたものの、決勝トーナメント１回戦で南米の強豪パラグアイに敗れ、ベスト16で大会を去った。この大会の後、イタリア人のアルベルト・ザッケローニ氏が日本代表の指揮をとってからの成績は17勝8分2敗(※PK戦で勝敗がついた試合は引き分けとして扱う・2012/8/15のベネズエラ戦までのデータを用いている)であり、ザッケローニ氏の初陣で史上初めて強豪国のアルゼンチンに勝利するなど目覚ましい活躍を遂げている。そうした背景から、サッカー日本代表はこれからどのようにして強くなっていくのかということに興味を持った。このチームが欧州の強豪国や南米の強豪国と互角に戦える、または凌駕できるようになるためには、よりよい選手がゴールキーパー・ディフェンダー・ミッドフィールダー・フォワードの各ポジションに複数人必要である。ではそういった選手を複数人揃えるにはどうすればよいのかを考えると、育成方法の改善が主にあげられる。

　また、筆者が中学生の頃目指していたものが少年サッカーの指導者であり、少年サッカーの良い育成方法について研究してみたいと思ったのが動機である。

1-2 背景

2005年1月1日、日本サッカー協会（以下JFA）は、「JFA2005年宣言」を掲げた。それには、4つの項目があるが、今回触れていくのは1番最後の項目である「JFAの約束2050」だ。それには以下のように書かれている

2050年までに、すべての人々に喜びを分かちあうために、ふたつの目標を達成する  
1．サッカーを愛する仲間＝サッカーファミリーが1000万人になる  
2．FIFAワールドカップを日本で開催し、日本代表チームはその大会で優勝チームとなる

この、FIFAワールドカップ（以下W杯）を日本で開催し、日本代表チームはその大会で優勝するという約束について考察していく。

1-3 育成メソッド

日本の少年サッカー育成メソッドに必要なことは、メンタルヘルスの強化、ボール扱いの向上、トレーニングセンターシステムの改善、そしてもっとも必要であることは、フィジカルの強化である。また、少年サッカー育成に関する問題点の解決法についても考えていく。それらを下の本論で詳しく解説していく。

1-4 条件

この論文を執筆するにあたって考慮すべき条件について考える。

上記にあるJFA2050年の約束の項目の2番について。この論文では、FIFAワールドカップにおける優勝という視点で論を進めていくゆえ、開催国に関する条件は無視して考える。もちろん筆者としても2050年までに日本でワールドカップを開催し、その大会で日本代表が優勝チームになることを望んでいるが、日本は2002年に韓国と共催でワールドカップを開催していて、2050年までにもう1度開催できるかということははっきりとイエスと言えないためである。

過去の日本代表やその他のチームのデータを用いる際は、むやみに古すぎるデータを用いても参考にならないため、北京オリンピックが開催された2008年8月からロンドンオリンピックが開催された2012年8月までのものとする。

2. 本論